

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 19 日現在

機関番号：62601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22330223

研究課題名（和文） 日本文化の教育的特質を活用したキー・コンピテンシーの
国際化に関する調査研究

研究課題名（英文） Research on the Internationalization of Key Competencies
applied with Educational Traits of Japanese Culture

研究代表者

立田 慶裕 (Tatsuta Yoshihiro)

国立教育政策研究所・生涯学習政策研究部・総括研究官

研究者番号：50135646

研究成果の概要（和文）：

日本文化の教育的特質を活用したキー・コンピテンシーの調査研究として、次の成果を得た。

(1) 西洋文化に対して、アジアの文化である日本の場合には、認知的側面だけでなく、魂や身体、体験を重視するホリスティックな視点での教育が重要である。こうした全人格的教育は、学校の文化部系の活動や地域との連携における学校行事などの特別教育を通しても行われている。

(2) 個人の学習における心と精神、身体「つながり」だけではなく、個人と社会のつながりを重視する縁や連携のためのコミュニケーション、過去から未来への伝統と歴史の教育が文化的コンピテンシーを育成する上で重要であり、前者はコミュニケーション教育、後者はナラティブ学習という形態の枠組みの中でとらえていく必要がある。

(3) eポートフォリオのような ICT を活用することによって、コミュニケーションやナラティブの力を育てることができる。

研究成果の概要（英文）：

We have found out following results through this research.

1. In Japanese culture including Asian culture against to the western culture, holistic perspectives, such as spirits, body, heart full experience, are promoted in school education. These whole-person educations are programmed in extra education and cultural circle activities.

2. In addition to connections among heart, mind and body in personal learning, communication between learners and community and educational program of tradition and history connected past to future are needed to bring up cultural competencies. We are possible to make some curriculum for communication and narrative learning.

3. Using e-Portfolio learning system is effective to bring up communication ability and narrative ability as Japanese cultural competency.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
22年度	4,100,000	150,000	4,250,000
23年度	4,200,000	150,000	4,350,000
24年度	3,400,000	30,000	3,430,000
年度			
年度			
総計	11,700,000	330,000	12,030,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：キー・コンピテンシー, 日本文化, ナラティブ学習, eポートフォリオ

1. 研究開始当初の背景

研究開始の当初は、キー・コンピテンシーが、PISA や PIAAC などの国際調査を中心に理解されており、読解力が中心となるコンピテンシーが重視された社会的背景にあった。しかし、その後、オーストラリアや米国を中心に、21 世紀スキルと呼ばれる学力の枠組みが展開され、また、ヨーロッパでは、2004 年の生涯学習のコンピテンシーの提言以後、E C の枠組みが中心となって各国の教育政策が展開されていった。

しかし、E C の枠組みにあるコンピテンシーの一つに、文化的コンピテンシーがあるように、各国はそれぞれ、国際標準としてのコンピテンシーの枠組みを参照としながらも独自の文化的背景や社会的背景の中で、教育政策を展開している。

こうした中で、本研究では、国際標準のコンピテンシーに対して、日本文化の特質を活かしたコンピテンシーとは何かを探ることを行った。

2. 研究の目的

本研究は、

1) 従来外国人研究者により高く評価された日本文化の教育的特質を、キー・コンピテンシーにおける集団での協働力（和の精神）と自律的な力（自主自立）の二つの視点から調査・分析し、

2) 各国独自の教育文化と比較して国際的に活用可能な尺度や教育内容を提案し、今後のコンピテンシーの国際標準化に貢献する一方、

3) 日本文化の教育的特質の比較優位性を探り、国際競争社会を生きるための日本の教育政策立案に有効な資料を得ることを目的とする。

3. 研究の方法

目的を達成するために、

(1) 日本文化の教育的特質に関する文献資料の収集を中心とした理論の研究

(2) 日本の教育的特質に関する研究会の開催

(3) 全国の伝統的な教育活動調査：全国各地に残る伝統的で非定型的な教育の実態として、全国の高校を対象に文化系の活動に関する事例調査、統計調査の実施

(4) 国際機関との共同による教育の文化的差異性に関する資料収集

(5) 日本のキー・コンピテンシー教育の実践に関するポートフォリオの実験研究を行う。

4. 研究成果

平成 22 年度は、下記の研究を行った。

(1) 日本文化の教育的特質に関する文献資料の収集を中心とした理論の研究

(2) 日本の教育的特質に関する研究会の開催：米国の成人教育の専門家を招聘し、アジアにおける成人教育の文化的特質に関する講演会を開催し、その理論的特質についての研究成果を公刊した。

(3) 全国の伝統的な教育活動調査：全国各地に残る伝統的で非定型的な教育の実態として、藩校の伝統を残す学校教育を対象にして、伝統的な教育を継続している地域の実態調査として、全国藩校サミットや邦楽教育の調査を行なった。

(4) 国際機関との共同による教育の文化的差異性に関する資料収集のため、OECD とユネスコ生涯学習研究所への訪問面接調査を行なった。

(5) 富山のインターネット市民塾において、キー・コンピテンシーを評価基準としたポートフォリオによる学習システムの研究への協力をを行い、そこで独自の評価基準を提供し、実験研究のデータを得た。

平成 23 年度は、下記の研究を行った。

(1) 日本の教育的特質に関する研究会の開催：米国の成人教育のうち、自律的な力としてのナラティブに関する研究会を開催し、その理論的特質についての研究成果を

まとめた。

(2) 全国の伝統的な教育活動調査: 全国各地に残る伝統的で非定型的な教育の実態として、全国の高校を対象に文化系の活動に関するウェブ調査を実施し、約 1000 校の回答を得た。

(3) 国際機関との共同による教育の文化的差異性に関する資料収集のため、OECD とユネスコ生涯学習研究所への訪問面接調査を行なった。

(4) 前年度に実施したキー・コンピテンシーに関するポートフォリオの実験研究の成果を国際 E ポートフォリオ学会で発表した。

平成 24 年度は、下記の研究を行った。

研究の最終年度は、平成 23 年度までの日本の文化的特質についての研究成果を踏まえて、特に e ポートフォリオの研究成果をイギリスで開催された 7 月の国際会議で日本人のコンピテンシーをデジタルな形で展開し、その評価を行った上で、地域の教育人材として認証を行うという内容で、'Developments of Social Recognition System by ePortfolio and e-Passport to Promote Social Participation' として発表した。

さらに、米国及び韓国から、自律的コンピテンシーであるナラティブ学習の専門家 3 名を招聘し、本研究の発展的テーマとして、「物語の力を育むナラティブ学習」と題する国際シンポジウムを 10 月に開催、国内からは、関西大学と共同のテレビ会議で討論を行った。そこでは、米国におけるナラティブと変容的学習、韓国のライフヒストリー、職業人のライフヒストリーの特色、そして代表者自身から、ナラティブが育む物語の力としての発表を行い、研究成果について広く多数の教育専門家からの意見を交換し、各国毎に異なる文化的背景の中でコンピテンシーの有り様を討議した。

また、最終年度として、三年間の研究のとりまとめを行い、2003 年に刊行された『キー・コンピテンシー』の提言以後の EU 諸国のキー・コンピテンシーや二十一世紀スキルの動向、及び、e ポートフォリオを中心とした日本の地域文化を活かした生涯

学習事業に関する 22 年度～24 年度の国際学会発表のまとめ、22～23 年度に行った高校の文化系サークルを対象とした調査結果、24 年度に行ったシンポジウムのまとめを報告書として作成し、WEB 掲載の予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

Yoshihiro Tatsuta, et all,
'Developments of Social Recognition System by ePortfolio and e-Passport to Promote Social Participation'
10th International ePIC2012 ePortfolio and Identity Conference, 2012年07月09日～2012年07月11日, Savoy Place, London

〔図書〕(計 2 件)

立田慶裕他著『生涯学習の理論－新たなパースペクティブー』、福村出版、2011

立田慶裕編『キー・コンピテンシーの展開』2013 (12 月刊行予定), 明石書店

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

立田慶裕 (国立教育政策研究所)

研究者番号: 50135646

(2) 研究分担者

松尾知明 (国立教育政策研究所)

研究者番号: 80320993

赤尾 勝己 (関西大学文学部)

研究者番号: 90202506

岩崎久美子 (国立教育政策研究所)

研究者番号: 10259989

(3) 連携研究者

佐藤一子 (法政大学キャリアデザイン学部)

研究者番号: 60114211

有本 昌弘 (東北大学大学院教育学研究科)

研究者番号: 80193093

町田 大輔 (国立教育政策研究所)

研究者番号: 90515181

笹井 宏益 (国立教育政策研究所)

研究者番号: 10271701

榎井 圭子 (国立教育政策研究所)

研究者番号: 50559482

鑑屋 真理子 (国立教育政策研究所)

研究者番号: 20249907